

## 2016年度 コリア国際学園の学校評価報告書

2016年度の本学園の教育活動を、「2016年度学校教育方針」に基づいて振り返り、校務分掌ごとに「2016年度学校教育総括」として整理した。以下に、その概要を報告する。

### 【教務部】

#### 1. 年間目標

- (1) 授業の質を向上させるとともに、安定した授業環境を整える。
- (2) 学生の自発的な学びと学校生活のための授業と生徒指導を実施する。
- (3) IB への移行を進める。(IBDP 推進部と連携)
- (4) 教務管理業務の整備

#### 2. 実施内容と総括

- (1) 授業の質を向上させるとともに、安定した授業環境を整える。

- ①年間の授業計画を進度表に依拠して進行したが、一部では進行表の作成そのものが滞ったり、年間を通して授業時間割の変更が幾たびも生じるなどの問題があった。そこで、次年度に向けてはより弾力性を持った計画を定立して実行していく。
- ②授業の質的な向上のため、教員間での相互授業参観を活性化した。具体的には、年間で2回の参観期間を設定して運営した。一方で、非常勤講師の担当授業や言語関連の授業など、相互参観が難しい状況もある。そこで、来年度は、より柔軟な機会設定を行う。
- ③教員研修はIB導入に向けたWSへの参加や校内での「協力的ミーティング」が主な教員研修となった。

その他の教員研修としては、以下を実施した。

- ・性教育に関する研修 12/12(月) 16:30~18:00  
徳永桂子先生(思春期保健相談士)

- (2) 安定した学校生活、落ち着いて学べる授業の雰囲気づくり

- ①授業態度に関する指導として、適宜、校務委員による教室巡回を実施した。
- ②欠席、遅刻、早退、欠課に対する意識の向上  
遅刻に対する責任感の欠如や保健室の安易な利用など、生徒の意識に課題が見受けられたが、徹底した改善は図られていない。因って、今後はより徹底した指導で対処する。

- ③担任業務

個人面談、集団面談を日常的に実施した。

あるクラスで学生指導対象者が複数いる場合、担任に負担が集中する。そこで、クラス面談や、放課後の教科指導の時間を確保するために、今後は、学生支援部との連携を積極的に取り入れていく。

- (3) 成績、出席管理

- ①定期試験を期末試験のみとした。

中間試験の運営そのものが目的化される傾向にある中、授業時間数やカリキュラムに応じて成績評価を合理的に行うため、中間試験を実施せず、期末試験に一本化して学期毎の成績評価を実施した。

一方で、教科によっては「中間評価」の必要性から臨機応変に授業中などを使って評価作業を行った。

## ②出席管理

出席簿への転記もれが少なくなく、来年度からは抜本的に改善策を定立、実施することを確認した。

## (4)特別活動、課外活動

中2の語学研修旅行、高1の修学旅行は当初の日程が変更になったが、無事に運営した。地域交流および海外からの短期留学生などの受け入れが続いたが、コア語科をはじめとする教職員の協力で無事実施できた。

・ボランティアおよび社会体験

3/8(水)・3/9(木)実施

地域への貢献を目的として実施している。昨年度から、職業体験の要素を持たせている。

## (5)保健事業

体格測定 5/19・24 体育授業時に実施した。

## (6)スクールカウンセリング

年間26回実施し、のべ111名がカウンセリングを受けた。

## (7)日本語特別指導

留学生の実状を鑑み、日本語の基礎力をつけた上で通常授業に参加させることで、これからの授業と日本語にとりくむ意欲を高めることを目標として実施した。

## 3. 参考、補足

### (1) 主な活動

- ・授業参観 5/28(土) 1/21(土)
- ・教員相互授業参観 6/6-25、11/7-26
- ・校外学習 春 6/11(土)  
秋 9月10日(土)(中1、中2、高1、高3のみ学級単位で実施)
- ・修学旅行  
中3 9月6日(火)～9月10日(土) 韓国  
高2 9月9(金)～9月20日(火) カナダ
- ・中2韓国語研修 10月5日(月)～10月14日(月)
- ・文化祭 11/19(土)
- ・バイオ医科学競演大会 11月10日(木)～14日(月)
- ・三言語スピーチ大会 11/12(土)
- ・特別講演・交流等など
  - 秋の音楽会 10月8日(土)
  - 特別講演 10月14日(金) 静岡大学 狩野芳伸先生
  - 山手台小学校来校 11月7日(月)
  - 多民族フェスティバル 11月12日(土)
  - 地域交流 11月12日(土)

### (2) 日本語特別指導について

留学生の実状に鑑み、1学期間(4ヶ月)、留学生日本語の授業を集中して行った。日本語の基

礎力をつけた上で通常授業に参加させることで、これからの授業と日本語にとりくむ意欲を高めることを目標とした。(期 間：10月1日～1月31日)

### (3) 海外長期留学

フィジー共和国のサンガムカレッジに1名の生徒が留学することになった。

## 【学生支援部】

### 1. 年間目標

- (1) 建学の精神、教育理念にそって自主的で創造的な学校生活、集団生活、自治活動を展開できるように支援する。
- (2) 個人と集団に対する尊重心に基づく秩序の確立を目指す。

### 2. 実施した内容

#### (1) 学生会・学級委員活動

- ・ 全体朝礼の進行（毎週月曜日）
- ・ 新入生歓迎合宿（4月27日～28日、前年度の学生会役員）
- ・ 学生会役員研修（5月12日～5月13日、KIS会議室・KIS寄宿舍にて）
- ・ 全校生集会（6月24日、KISに対する思い・運動会について）
- ・ 運動会（10月1日、豊川小学校グラウンド）
- ・ 文化祭（11月19日）
- ・ ホリデーパーティ（12月22日）
- ・ 卒業式第2部（2月18日）
- ・ 地域清掃（2月16日 8:00～8:30、2月24日 16:45～17:30）
- ・ 早朝挨拶（2月14日、2月21日）
- ・ 毎週月曜日に学級委員会を実施し、学級での問題点などを取り上げ、解決策について相談した。
- ・ 3学期に入ってからようやく普段の生活に目を向けるようになり、地域清掃や早朝挨拶を実施するようになった。地域とのよい関係を築く機会となった。
- ・ 学生会役員が行事に積極的に関わることにより、他人をまとめる力が身についた。

#### (2) 生活指導

##### ① 実施した内容および成果

- ・ 問題行動に対する生活指導は的確に行い毎週教職員会議で報告し、協議した。
- ・ 生活指導については、本人・保護者への説明を十分に行い、理解を得るように指導を行った。
- ・ 規則違反を繰り返す生徒には学校指導と共に保護者に連絡し家庭指導も行った。

##### ② 反省点および今後の課題

- ・ 交通事故、喫煙、飲酒、薬物等予防的生徒指導を担任と連携して統一的に実施出来なかった。
- ・ 生活指導方針に一貫性をもたせ、教員の一致協力による指導を実施する。
- ・ 指導案作成や指導方法については、学生支援部・職員会議等で協議を尽くし、学校長の助言・指導・責任のもとに生活指導を実施する
- ・ 制服、頭髪などについての規定を学生・保護者周知し、規定に対する理解を深める必要がある。

### (3) クラブ活動

#### ① 実施した内容実施した内容および成果

- ・ 外部のイベントへの参加

イベント名	日付	参加した部活動名	内容
神戸まつり	5月15日	伝統芸術部	在日コリアン行進団の一員としてパレードに参加
立命館大学 Asia week	10月22日	伝統芸術部 テコンドー部	舞台発表
豊川フェスタ	10月30日	伝統芸術部 テコンドー部	舞台発表
他民族フェスティバル	11月12日	伝統芸術部 テコンドー部	舞台発表
ワールド in 郡山	12月1日	伝統芸術部	舞台発表
やよいまつり	3月5日	伝統芸術部 テコンドー部	舞台発表

- ・ 部活動状況（毎週活動している部活）

部活動名	活動曜日	生活指導	技術指導
伝統芸術部	火	金美那	黄金福
テコンドー部	水・金 (月・火・木はランニング)	不在	全徹寿
サッカー部	月・火・木	Jay	不在
軽音楽部	月・水・金	不在	裏眞珠
ユネスコ部	不定期	池田	不在

- ・ イベントに参加することによって、外部の方に **KIS** を知ってもらうことができた。
- ・ 部活動に参加している学生が文化祭や外部のイベントを通して活躍することができた。

#### ② 課題反省点および今後の課題

- ・ 部活動で使用した道具を片付けていないことがあったため、道具を大事にするよう指導する必要がある。

### (4) 特別活動

#### ① 目標

- ・ CAS の準備段階として **ESD** パスポートを活用したボランティア活動を推進する。
- ・ 全校生がボランティア活動に参加できるよう様々な活動の場を紹介する。

#### ② 実施した内容実施した内容および成果

- ・ CAS の準備活動として位置づけ **ESD** パスポートを活用したボランティア活動を呼びかけた。
- ・ 全校生を **ESD** パスポートの所持状況と体験したい活動を集計した。(7月)
- ・ 高等部3年生2名が30 ボランを達成し日本ユネスコ協会連盟よりボランティア活動認定証が授与された。

- ・ 学校内の活動のみならず外部団体との積極的な協働を試みた。  
[代表的な活動]
  - ・ 学生会や学級委員会による地域清掃(通年)
  - ・ 学生会や学級委員会によるあいさつキャンペーン(通年)
  - ・ ユネスコ部で企画したボランティア活動
  - ・ 韓中日ユースフォーラム in ソウル(7/25～7/27)
  - ・ 小さな外交官プロジェクト in 城南(7/26～7/30)
  - ・ 気仙沼ボランティア(7/20～7/24)
  - ・ オリニ希望学校ボランティア(7/23～7/30)
- ③ 課題反省点および今後の課題
- ・ 学校全体として活動と言うより、一部積極的な学生の活動に留まっている。
  - ・ 今後は CAS 活動を想定し、全校生を対象とした活動として実施する。

## 【IB 推進委員会】

### 1. 年間目標

- (1) IB 認定校の実現に向けて準備作業を確実に推進する。

### 2. 準備の経過と結果

- (1) ワークショップ参加し IB 教員資格獲得
- (2) 協力的ミーティングを毎週水曜日に実施 (2 学期は変動的に実施)
- (3) 政策方針を作成完了
- (4) 全教科カリキュラム作成と継続的なアップデート
- (5) 説明会の実施
- ① 保護者、生徒
    - A) 保護者：IB の理解をあげるため 2 回実施 (2016 年 10 月、2017 年 1 月)
    - B) 生徒：HR 時間 IB ガイダンスを 2 回実施 (2016 年 11 月、2017 年 1 月)
    - C) EE 面談を通して IB の理解度を向上。
  - ② 非常勤講師
    - A) 認定訪問の前にコーディネーターと面談。
  - ③ IB 実施のための施設。(実験室、図書室、ネット環境、Managebac)
- (6) コンサルタント訪問
- ① 日程：5 月 31 日～6 月 2 日
  - ② 対象
 

A) 運営委員会	B) 校務委員	C) 各教科先生
D) DP コーディネーター	E) 生徒	F) 保護者
G) 学校施設見学		
- (7) 認定訪問
- ① 日程：2 月 6 日 - 2 月 8 日
  - ② 対象
 

A) 理事会メンバー	B) 校務委員	C) 各教科先生
D) DP コーディネーター	E) 司書	F) 進路担当
G) 生徒	H) 保護者	I) 学校施設見学
  - ③ 指摘内容 (最終レポート 2 月 21 日)
    - A) 予算案作成。(図書室、実験室 CAS, TOK)

- B) 実験室施設準備
- C) 図書室環境整備
- D) カリキュラムの作成
- E) ハンドブック作成 (EE, CAS, TOK, DP)
- F) 追加的説明会を実施 (中等部の保護者も含む)
- G) 生徒全員が Full DP を履修しない課程を設置
- H) 学校政策の発展 (入学政策、評価政策、学問的誠実性政策)
- I) IB 全般に関する規則の熟知
- J) Action plan 修正 (今後の計画を含む)
- K) 外部評価専用のキャビネット準備
- L) 学生の多様な授業選択ができるように時間割修正
- M) 協力的ミーティングの議事録作成
- N) 効果的学習のための形成的評価を実施
- O) 全教科教員の言語教育を強化
- P) 学生像を効果的に達成できるカリキュラムの作成

#### 4. 今後の計画

- (1) 認定訪問指摘項目改善
- (2) スクールコミュニティに活発的に情報提供
  - ① 説明会を定期的実施
  - ② 該当学年以外の保護者の参加
  - ③ DP 以前の学年に教育
    - A) IB
    - B) 管理システム
- (3) 予算確保

#### 【広報部】

##### 1. 学校の宣伝

- ① Web の活用：本校の Web サイトを充実させ、宣伝活動の重要な軸とする。
  - ・ HTML 方式と CMS 方式の両面で Web サイトのリニューアルを検討し、CMS 形式を選択した。
- ② 学校紹介パンフ：学校紹介の宣伝物としてパンフレットを制作し、広報活動に活用する。
  - ・ 学校訪問などの広報活動に活用することができたが、毎年同じ内容でのレイアウトなど、改善の課題は残っている。
- ③ 広報誌：「越境人」を年 2 回発行して学校の宣伝に活用する。
  - ・ 学校訪問などの広報活動に活用する他、全国的な発送を含めて幅広く活用できた。
- ④ 宣伝ポスター：在籍生徒及び卒業生、協力企業などの生活環境にポスターの掲示を要請し、宣伝活動の一部とする。
  - ・ 「費用対効果」を勘案して今年度は作成しなかったが、特に問題は生じていない。
- ⑤ 宣伝チラシ：宣伝ポスターのサイズを縮めたチラシを作成し、日常的な広報活動に於ける配布物として活用する。
  - ・ 「KIS サマースクール」及び 2 学期の「オープンスクール」日程、更に 2017 年度生の入学試験日程も含めて広報活動に有効活用できた。
- ⑥ 電車広告：大阪モノレールの全車両に学校の宣伝広告を掲示し、周辺地区を中心とした広報

手段とする。

- ・6月1日から大阪モノレールの全84車両に掲示される宣伝広告を実施した。

⑦その他：様々な広報手段の開発と実施

1) マスコミ対策：関西エリアだけでなく、広範囲にマスコミ報道などを通じた広報を模索する。

1) マスコミによる取材

- ・2016年度入学式（NHK大阪放送局） 放映はなし。
- ・「哲学カフェ」（毎日新聞） 6月4日（土）朝刊に掲載  
※ 高校2年 生徒の写真展 2月11日（土） 朝刊に掲載
- ・12月12日（日本経済新聞） 報道はなし。
- ・1月27日（朝日新聞） 報道はなし。

2) その他

- ・韓国のドキュメンタリー映画監督による、KISを題材にした映画の制作  
2016年度卒業式から撮影を開始
- ・ミシガン大学（教育研究者が来校）

2. 生徒募集

①学校訪問

1) 在校生及び卒業生の出身中学校、小学校を直接訪問

2) 教職員による学校訪問

<春期>

1 学期末試験期間を使い、専任、常勤教員による学校訪問を、対象を本校近隣と在日コリアンの密集居住地である大阪市生野区の小・中学校として81校を選定して実施した。

- ・短期的な生徒募集には直結できないが、今回の訪問を通して様々な情報を得たことなど、成果的に終わることができたと評価する。

<秋期>

2 学期、主に「民族学級」設置校と「通学可能エリア」を想定して15校を訪問した。

- ・「民族学級」設置校を示す資料の老朽化で実態にそぐわないことが判明し、当初の訪問計画を大幅に変更せざるを得なかった。
- ・「民族学級」そのものも従来の「コリア系」でなくなっているケースが多く、訪問目的に支障を来した。

②サマースクール、オープンスクール：生徒募集の重要な行事として位置づけする。

1) 2016 サマースクール報告（参加者：14名） 男子5名、女子9名

- ・教職員全員の出勤体制で概ね良好な運営を行えた。
- ・参加者の感想も全体的に高評価で、広報活動の一助となった。

2) オープンスクール

2016年度	小6	中3	小計	他学年	合計	出願者数
合計	10	8	18	5	23	11

2015年度	13	10	23	12	35	10
--------	----	----	----	----	----	----

- ・当該学年の出願率は 61%(11/18)で、高いとは評価し難いが、昨年度の 43%よりは向上しており、極めて低いとも評価できない。
- ・当該学年の出願率を 50%と仮定すれば、募集定員を充足するためには最低でも 70 名の参加者を獲得する必要がある、オープンスクール不参加の出願数を今年度並み(7 名)と想定しても、60 名以上の参加が必須の課題となる。

### 3)入学試験（一般 2 次入試実施以前の時点）

＜受験者＞ ※全員が合格（ ）内は併願

	中等部	高等部	合計
合計	11	7	18

- ・入学試験の回数を増やし、数学の試験を無くしたことからの影響は判断し難い。

### 4)編入（2016 年度）

中 1	中 2	中 3	高 1	高 2	高 3	合計
3	1	5	0	3	0	12

- ・留学生が編入する場合、授業で使用される言語や日常生活言語の問題、VISA 取得など事務的な作業など、編入時期を「随時」で対応するには大きな障害があると捉えざるを得ないことが改めて確認された。今後は募集要項に編入時期を明記するなどの対応策が必要である。

### 3. その他

- ①企業訪問：近隣地域での広報活動（1 件）
- ②諸施設への広報活動：(1 件 広報物設置)
- ③店舗への広報活動：(3 件：飲食店など)
- ④UNESCO School コーディネーター会議：参加者への宣伝物配布

## 【管理部】

### 1. 施設管理

- ①校舎管理：校舎及び近辺の保全、美化、維持、管理
  - ・空調設備のメンテナンスや各教室の窓ガラスの破損に関しては随時修理を完了した。
- ②グラウンド：グラウンドの整備と管理
  - ・グラウンドなどでの体育用具の散乱、放置に関しては「使用禁止」を含めて厳しく指導することを前提に、当該生徒による整理整頓を年度末までに完了させる。
- ③校舎外施設：学校内外の側溝などに関する美化、管理
  - ・近隣住民との友好的な環境保全を推進していくため、学校外の側溝付近などに対する清掃活動を行ってきた。
- ④その他：自動車の維持、管理など
  - ・自動車の「リコール修理」を済ませ、滞っていた保険契約に対しても対応した。

### 2. 備品管理

- ①消耗品管理：印刷用紙、チョークなど、事務用品を中心とした消耗品の準備と補充
  - ・各備品に関しては、教員からの注文に応じて漏れのない対応を行った。



- ・校内にあった不要品、使えなくなった備品などを廃棄するなど、整理を進めた。

### 3. デジタル機器管理

#### ①ハードウェア管理：PC、プリンター、プロジェクターの管理

- ・WiFi環境の整備に伴う各PCの受信設定を夏休み中に完了した。

#### ②ソフトウェア管理：OS及びアプリケーションの管理

- ・教員用PCに関して、セキュリティーソフトウェアのアップデートを行った。

### 4. 清掃

#### ①H R 教室：設置物の保守と教室の美化

- ・各教室の教育環境整備を、生徒の私物管理を中心に「生徒の自己管理能力向上」、「紛失・盗難の防止」、「美化促進」を目的として方針化したが、抜本的な改善が課題となっている。

#### ②専門教室など：設置物の保守と教室の美化

- ・1学期に確認した各教室の役割分担を2学期方針で再確認し、具体的な管理作業を改めて課題とした。

#### ③共同使用場所：ピロティ、廊下、トイレなどの清掃指導と保守

- ・生徒による日常の清掃活動に関して、清掃作業と教員による確認作業は徹底できていない状態にある。
- ・大掃除は学期毎に実施し、1学期は窓ガラスを中心に実施して好結果を得た。

#### ④ゴミの分別処理に関する役割分担

- ・2学期は全教員で分別などの作業を分担し、作業全般の認識を共有化することができた。
- ・今後は、来年度を展望して生徒中心の処理体制を整えることを課題とする。

### 5. その他

- #### ①AED：使用期限が切れているものもあり、今後の対策が急務の課題となっている。

以上